



学びと誇りが実感できるまち ～体力・運動能力向上に向けて！～

平成31年 2月号

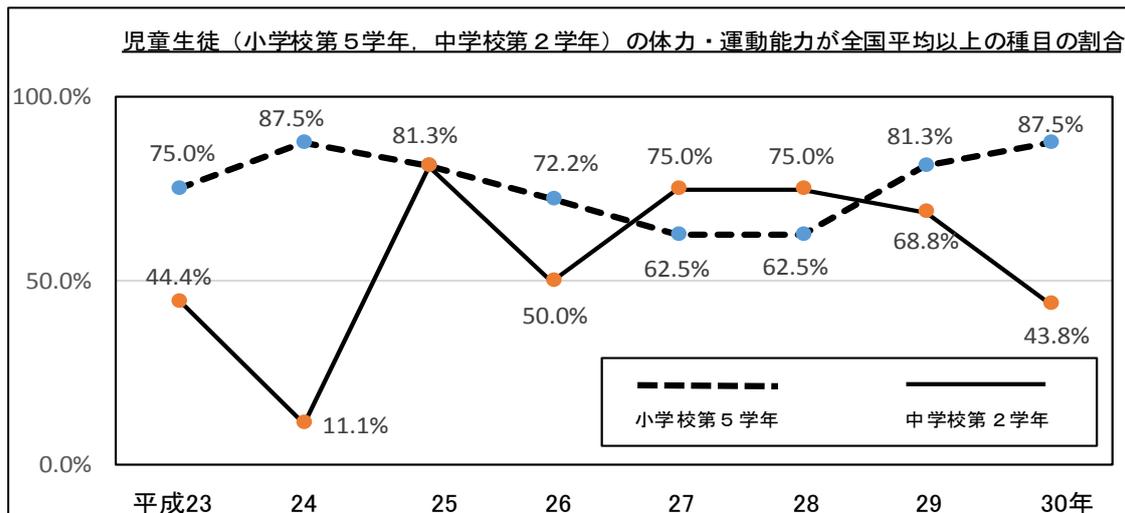
庄原市教育委員会
教育長 牧原 明人

さらさらと竹に音あり夜の雪 (正岡子規)

本年も庄原の児童生徒の詩や作文が高く評価されています。例年、正月明けに鈴木三重吉賞の入選作品の発表が行われていますが、応募作品1万1309点の中から、特選4点、優秀賞7点を含め61点の作品が入賞しました。また、県教育委員会が主催している「ことばの輝きコンクール」においても優秀賞3点が選出されました。これからも感性を磨き、書くことを通して思考力や表現力を高めていく実践を各学校において力を入れていきます。

さて、今回は、体力・運動能力向上に向けた取り組みについてです。

次のグラフは、本市児童生徒の体力・運動能力調査結果の中から、全国平均以上の種目数の割合を表した8年間の推移です。



体力・運動能力調査は、毎年小中学校ともにすべての学年で実施していますが、グラフは小学校第5学年、中学校第2学年の結果です。調査種目は「握力」「上体起こし」「長座体前屈」「反復横とび」「20mシャトルラン(持久走)」「立ち幅とび」「50m走」「ボール投げ」の8種目です。

グラフの数値は、男女合わせて16種目実施していますので、そのうち全国平均以上の結果を出した種目数の割合を示しています。例えば、平成30年の小学生の87.5%は、14種目が全国平均以上になっているということです。

最近3年間の調査結果では「上体起こし、反復横とび、立ち幅とび」などは比較的優れていますが、「20mシャトルラン、50m走、握力」は全国平均を下回っており、特に中学校男子では、瞬発力、持久力などに課題が出てきています。

今後、平素からの授業において、課題解決を意識した展開を図ることや日常生活においても自己目標を設定し、歩くことやジョギング、縄跳びなどをはじめ、健康・体力づくり等につながる運動を積極的に行うことが大切です。